

久留米市卸売市場運営協議会（会議録要旨）

日時：令和5年8月18日（金）14:00 から 14:50 まで

場所：久留米市中央卸売市場 大会議室

出席者：委員総数 22 名中 21 名出席

（欠席者：1名）

次第：1 開設者挨拶

2 委員紹介

3 正副会長の選任について

4 議題

第3期市場活性化推進計画の取組状況について

5 その他

1. 開設者挨拶

市長	市長挨拶
----	------

2. 新委員紹介

事務局	新委員の紹介
-----	--------

3. 正副会長の選任について

事務局	会長に原口和人委員、副会長に吉田誠委員を決定
-----	------------------------

4. 議題

第3期市場活性化推進計画の取組状況について

事務局	【配布資料 第3期市場活性化推進計画の取組状況について】の説明
A 委員	【青果部卸売会社の販売状況についての説明】 令和5年度の販売状況は、8月18日時点で、売上金額で前年比97%、数量で96%、収益で99%である。7月豪雨の影響で、特に地場野菜・スイカなどで大きな被害が出ており、その被害がなければ、もう少し上積みできたのではないかと分析している。収益については、諸経費の高騰により、非常に厳しさがあると分析している。他業種では、諸経費の高騰を商品の値段に転嫁できるが、特に青果市場は手数料が収入源となっており、経費上昇分を転嫁できず苦しい状況は続くとみている。 私ども青果卸会社も社員一同尽力しているものの、厳しい現状もある。しかし今後とも精一杯力を尽くしていきたい。

B 委員	<p>【水産部卸売会社の販売状況についての説明】</p> <p>水産物部の取扱高は平成 10 年をピークに減少傾向にある。特に令和 2 年度以降については、卸売市場法の改正で、場外倉庫の取引が取扱高の対象外となったために、見かけ上大幅に減少している。しかし、旧市場法に基づき場外倉庫の取引額も売上高に含めて算出した場合、コロナ禍から回復傾向にあり、昨年度は平成 30 年度の取扱高に近い金額となっている。</p> <p>また、経費削減や、作業・物流の効率化を進め、採算ベースでも経営上の支障はない。</p> <p>今後は、少子高齢化に伴う商圏人口の減少、地球温暖化による魚種・漁獲量の減が今後も続く見込みである。多分に漏れず厳しい状況ではあるが、集荷力・販売力・物流力・商品力を向上させ、久留米市や久留米市民の皆様へ貢献したいと考えている。</p>
C 委員	<p>「福祉施設に対する市場活用の働きかけ」について、福祉施設にメール送付をしたとのことだが、メール配信の反応・成果はあったのか。</p>
事務局	<p>福祉施設には、できるだけ久留米産の農産物を使ってくださいということ、使っていただける場合にはできるだけ市場を利用してほしいという 2 点を依頼しており、地産地消推進店や市場内の仲卸業者を案内しているが、具体的な商談につながっているかどうかまでは把握していない。</p>
C 委員	<p>福祉施設側としては、どのように市場と話をしているか明白にみえてこない。</p> <p>久留米市内の医療施設・福祉施設の生鮮食料品の消費量は相当なものだと思われる。それをもう少し有効活用してもらえ動きをしてもらえたら、できるだけ協力したい。</p>
D 委員	<p>C 委員にお聞きしたいが、大手福祉施設などは大都市圏から生鮮食料品を運んで来ると聞いている。大手の会社にも市が依頼すれば協力してもらえるものなのか。</p>
C 委員	<p>全国チェーンの福祉施設の食材調達本部が決めるので、久留米市産農産物の活用を依頼しても難しいところがある。しかし久留米市内には独自で経営している小規模施設がたくさんある。</p> <p>久留米市でどんな農作物が採れているのか、今の旬の農作物が何なのか、そしてそれを摂取することがいかに体にいいかということ福祉施設側が知らない。旬ではない農作物を調達したりして、コスト増にもつながっている。地元のものを使うことで、地元の活性化につながると同時に、コストも下げられる。このことを、もう少し具体的にアピールできるように、施設側にわかるようなものがあるといい。</p>
D 委員	<p>市には福祉関係の許可を出す部局もある。福祉施設での久留米産農産物の活用を、農政部が福祉関係の部局に働きかけることについてはどう考えるか。</p>
事務局	<p>市の福祉関係部局が許認可行為を行う際に、久留米産農産物を使っていたかどうかを確認することについては、福祉部局と今後話していきたい。</p>

会長	<p>この卸売市場は、今が正念場だと言える。まず卸業者には集荷力向上に徹底的に取り組んでいただきたい。そして仲卸業者はそれを積極的に販売してほしい。こうした関係プレーと集荷力・販売力の強化がなければ、間違いなくこの市場は厳しい状況が続くだろう。この件を十分に理解した上で今後の運営をしていただきたい。</p> <p>久留米は福岡県ナンバーワンの農業都市であり、様々な農作物が作られている。地産地消を色々な企業に PR し、厳しい状況に打ち勝つ営業努力をしてほしい。</p> <p>また、市場関係者との連携も非常に大事である。卸・仲卸・売参・その他いろいろな関係部署の方々が連携をして、厳しい状況を乗り切っていくことが大事である。</p>
----	--

5. その他

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・「いちば de マルシェ」について ・令和 5 年度市場まつりについて（10 月 8 日開催）
E 委員	<p>最後に一言だけ申し上げたい。</p> <p>久留米市場の近郊は農産物の生産力があるが、その多くが久留米の市場に来ていない。かつて JA の方にその理由を尋ねたことがあるが、適正な値段が見つからないからとのことで、適正な値段がつきさえすれば出してくれるとのことだった。</p> <p>JA の方をお願いしたいのは、ほとんど関西地方に出荷していると思うが、久留米の市場に出して欲しいということである。現在、卸業者と我々流通業者と JA との話し合いがうまくいっていないのだろうと思う。</p>
会長	<p>地元で採れた農産物を集荷し販売していくには、人間関係が大切だと考える。地元出荷者と連携を取っていかなければならない。また開設者には、卸・仲卸・売参の間に入って情報交換を図ることにしっかり取り組んでいただきたい。</p> <p>市民に対する安心・安全を担保するためにも、今後の具体的な展開を考えていただきたい。</p>
E 委員	<p>卸と仲卸の関係性が良好になった成果のひとつが、いちば de マルシェや市場まつりなどの市場開放イベントである。前回の市場まつりの人出はものすごいものだった。市民が市場に対していい感想を持ってもらえたからではないかと考える。</p>
会長	<p>この市場の重要性を市民にわかってもらわなければならない。そのためには色々なイベントを行い、理解してもらわなければならない。このことを踏まえて今後の取り組みを行っていただきたい。</p>